

## 地域研究の過去、現在、そして未来 - 地域研究企画交流センター記念行事に出席して -

真冬並みの寒さが戻って来た3月29日、国立民族学博物館の講堂で行われた地域研究企画交流センター記念行事「地域研究の可能性を求めて - 地域研の12年、そして今後へ -」に2人して出席した。

国立民族学博物館地域研究企画交流センター【以下、民博地域研究企画交流センター、と略す】は、2006年3月31日をもって再編され、4月1日からは、京都大学地域研究統合情報センターとして再出発する。そのいわば、民博地域研究所としての活動と機能に終止符を打つ意味で、11年10ヶ月に亘る研究活動の総括を行い、今後の地域研究の可能性を探るのが、今回のシンポジウムの主たる目的のようであった。

添付資料にある式次第に従ってまず、6人のパネラーが、個々の専門とする学問領域から、地域研究とは何か、地域研究の実践と方法、目的等についてそれぞれの持論を述べた。

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の大塚和夫教授は、「人類学と地域研究 - パラダイムと制度」なるテーマの下、自身のイスラーム研究の視座から、もう一つの普遍性を持つ中東研究の現実や今後の地域研究の可能性について、挑発的ともいえる見方を問題提起した。

引き続き、長崎大学熱帯医学研究所の門司和彦氏は、帝国医療と風土病学（エンデミオロジー）の双方の視点から、地域研究に直結した熱帯医学について論じ、地域研究の有効性を指摘した。さらに同氏は、パワーポイントを用いながら、人類学的、環境学的、学際的、医学（生物科学）的アプローチの必要性を説いていた。

3番目のパネラーである民博地域研究企画交流センターの阿部健一氏は、生態学者の立場から、フィールドで直面する世界的なイシューである熱帯雨林と水の問題を、開発と環境を巡る地域研究の事例として取り上げた。そして、世界の熱帯雨林が一樣でない点（氏は、世界の3つの熱帯雨林地域を指摘し、それらの地域が生態学的に全く異なり、歴史的・文化的・社会的にも差異があることから、それぞれの熱帯林には特有の「問題」が存在することを強調）や、地域と地域、また地域と世界をつなぐ **mediation**（「媒介」）たる地域研究の重要性について触れた。「グローバル化の時代だからこそ、ますます地域と地域研究が重要になってくる」という氏の言葉が印象深かった。

ラテンアメリカ研究者である東京大学大学院総合文化研究科の恒川恵市教授は、地域研究のあり方(本質)を再考させる内容の問題提起を行なった。まず、民博地域研究企画センターの活動を総括・評価した上で氏は、わけても日本における地域研究が、人々の社会や文化を虚心坦懐に分析するもので、欧米のディシプリンを書き換えるものでなければならないことを力説した。そして、具体的な地域研究の方法、すなわち、以下の5点を提示した。

①既存のディシプリンを越える（見直す）、柔軟な学際性を有すること

- ②複数の地域の比較と相互関係に着目すること
- ③比較の視座から個性、固有性を探求すること
- ④フィールドワーク（現場主義）を重視すること
- ⑤地域設定を柔軟に設定すること

加えて恒川氏は、自分の得意な国(地域)以外にも目を向けて、複数のディシプリンに柔軟に対応しながら統合的な地域研究を目指すべきである、と結論づけた。

北海道大学スラブ研究センター長の家田修教授は、自らのハンガリー研究を踏まえ、地域研究とコンソーシャムの役割について述べながら、これまでの地域研究の成果を列挙した。

最後のパネラーである民博地域研究企画交流センター所属の帯谷知可女史は、収奪しないかたちで京都外国語大学の堀川徹教授らと蒐集した、旧ソ連の中央アジアの資(史)料、とりわけ『トルキスタン集成』のデジタル化と、蓄積した資料の現地との共有の試みや、資料を駆使した今後の中央アジア研究の可能性について披瀝した。

このシンポジウムの終りに当たって、冒頭に趣旨説明をされた地域研究企画交流センター長の押川文子教授が討論を総括したのち、地域研究の12年を振り返り、今後の「京大地域研」での展開、抱負などを語られた。

その後、全体討論の場となったが、一部の研究者による地域研究の目的に関する質問を除いて、活発な議論はなされなかった。とまれ、いずれも第一線で活躍する一流の研究者の発表であっただけに、私たちポルトガル語圏を対象にして地域研究に従事する立場から、極めて意義のあるシンポジウムであった、つまり、これまでの自分たちの地域研究を再考し深化させる意味において。

末尾ながら、地域研究企画センターから、まことに貴重な同センターから刊行された「地域研究」等の学術誌の提供を受けた。記して前地域研究企画交流センター長であられた押川文子先生をはじめセンターの諸先生、職員の皆様に深甚なる謝意を表します。

2006年4月2日

ブラジル民族文化研究センター主幹 田所清克  
同主任研究員 岐部雅之